

# 学校法人 滋慶学園 仙台ECO動物海洋専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【   】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	<p>学校法人滋慶学園仙台ECO動物海洋専門学校は、滋慶学園グループに所属し、「職業人教育を通じて社会に貢献する」をミッションとしている。</p> <p>■建学の理念 ①実学教育 ②人間教育 ③国際教育</p> <p>■4つの信頼 ①学生と保護者の信頼 ②高校の信頼 ③業界の信頼 ③地域の信頼</p> <p>■育成人材像 動物業界とともに、創造力を持った即戦力となる人材を育成</p> <p>単なる専門知識・技術を持った人材を育成するのではなく、感動を与えられる人材、業界の変化に対応できる人材を育成し、業界に喜んでもらえる人材を育成する。</p> <p>「職業人教育」=「専門職業教育」+「キャリア教育」との観点より「仲間と面白い仕事を夢中とする幸せ」の獲得を目指し、そのために必要な「身構え、気構え、心構え」を育成するという基本的方向性に基づいて、 【入学前】基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期 【在学中】専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期 【卒業後】社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期と捉え展開している。</p> <p>■滋慶学園グループの「建学の理念」や「4つの信頼」を踏まえた、自主的・自律的な3つのポリシーの策定 ①DP(ディプロマポリシー)…卒業認定・学位授与の方針 卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力の明確化 ②CP(カリキュラムポリシー)…教育課程編成・実施の方針 体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化 ③AP(アドミッションポリシー)…入学者受け入れの方針 入学者に求める学力の明確化と具体的な入学者選抜方法の明示</p> <p>以上の3つのポリシーとそれに基づく教育の実績等を分かりやすく積極的に情報公開することで、産業界からの理解を得て連携を強化する。</p> <p>■将来構想 5ヶ年毎の計画を立てており、今年第7期5ヶ年計画の2年目となる。 ＜第7期5ヶ年計画＞ A 革新的なテーマを設ける (新しい学科・コース、ビジネスモデル、新規事業などの設立) B 事業運営力を高める C DXに注力する D コンプライアンスを重視する E イノベーションをはかる F グローバルな視野を広める G 理念・コンセプトを再確認</p>	<p>■滋慶学園グループ 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッションに掲げ、全国に79校の高等教育機関及び専門学校を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、「建学の理念」…「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」と「4つ信頼」…「学生と保護者の信頼」・「高校の先生の信頼」・「業界の信頼」・「地域の信頼」を実践することで、教育の実現を目指している。</p> <p>■仙台ECO動物海洋専門学校における建学の理念 「実学教育」 業界が求める人材を業界と共に育成し送り出すことを教育コンセプトとし、業界の即戦力として活躍できる専門知識や技術を習得し、将来的なニーズに対して創造的に対応できる専門職として、業界が求める人材を育成する。</p> <p>「人間教育」 学ぶことは、将来の目標実現に向けて自己変革し、自らに付加価値をつけ、専門知識や技術だけでなく、使命感を持って前向きに生きる情熱と思いやりを持った心豊かな人材を育成する。</p> <p>「国際教育」 21世紀はボーダーレスの時代といわれ、ビジネス・シーンにおいては海外での活動や外国の方々とのコミュニケーション、ビジネスの機会が広がる中、外国語だけでなく他国のことを知ると同時に、自国のこと(歴史、文化、伝統)を良く知り主張もできるグローバルな視点を持った人材を育成する。</p> <p>■仙台ECO動物海洋専門学校における3つのポリシー DP(ディプロマポリシー) 創造力豊かな業界が求める即戦力となる人材を育成する ①人と動物とのよりよい関係を考え実践できる人 ②業界人として必要な専門知識・技術を身につけた人 ③動物の行動心理を理解し接することができる人 ④動物・ペット業界で活躍するために必要なビジネスマインドを身につけた人 ⑤社会人としてのマナーやルールを守れる良識を身につけた人</p> <p>CP(カリキュラムポリシー) 「建学の理念」を実践し、「4つの信頼」を得ることを教育コンセプトとし、産学連携教育システムを通じて、業界に必要とされる即戦力を身につける ①業界で求められるセルフマネジメントやチームマネジメントが実践でき、人間力を兼ね備えた人材を育成するキャリア教育を実践する ②業界における専門的知識と技術を習得するため、基礎科目から専門科目まで講義・演習・実習を通して実施する ③成績評価は、試験規定により評価する</p> <p>AP(アドミッションポリシー) 仙台ECO動物海洋専門学校のミッションと目的に共感できる入学者を受け入れる ①将来の夢や目標を持っている人 ②学校の教育内容や方針を十分理解している人 ③好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人 ④「好きな事を仕事にしたい」という気持ちを持っている人</p>	③・2・1	<p>・学校の理念・目的が明確であり、その実現の為の実践と支援がなされていると感じました。 ・AIを活用したDX推進は、効率化と共により良くして行ける可能性がありいい試みです。 ・学校教育及び運営水準の向上を図ると共に活性化を目指す具体的な方針及び学校の特情が明確になっています。6月の学園祭を訪問した際には、学生達が眼を輝かせながら担当する動物のことを楽しそうに熱を込めて説明する姿が印象に残りました。好きな事、楽しい事を仕事にできるよう、充実した学校生活を通じて目標を実現して頂きたいと、地元しても改めて感じた次第です。</p>
	1-2 学校の特色は何か					
	1-3 学校の将来構想を抱いているか					

<p>2 学校運営</p>	<p>2-4 運営方針は定められているか</p> <p>2-5 事業計画は定められているか</p> <p>2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか</p> <p>2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</p> <p>2-8 意思決定システムは確立されているか</p> <p>2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	<p>3</p> <p>社会の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし作成している。毎年作成しているこの事業計画書が各校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決算を受け、承認を得ることになっている。運営方針や意思決定システム、組織、各部署における目標や取組み、職務分掌、各種会議及び研修等々、明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校が最も大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また係わる全ての人々が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p> <p>情報管理については、業務システム(広報システム・教務システム)、勤怠システム、予算管理システムなどを導入し、業務の効率化を図っている</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校における全ての部署について考えられ、また、全ての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるようにしている。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>・いち早く少子化に対応していく事業計画を立てているのはいいことです。 ・AIを活用して退学者を減らす試みも今後が楽しみです。 ・少子化等、社会の変化に対応すべく中長期の計画を定期的に再作成する点を評価しました。学生個人が授業を休んだ傾向等をデータ化して、予兆の把握と共に退学防止に繋げる情報管理の教務システムが優れていると感じました。学生のリタイヤ退学を防ごうとする学校の運営方針に共鳴しました。地域で生活する若者として卒業まで楽しく学生生活を過ごしていただきたい。</p>
<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p> <p>職業人教育は業界と密接な関係を持つ必要があるため、建学の理念・学校設立コンセプトに基づいて、常に業界の動向を把握し変化に対応して養成目的や教科目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>仙台ECO動物海洋専門学校は、「産学連携教育システム」を実践しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成している。</p> <p>教科目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで体系的に編成されている。また、カリキュラムは専門職業教育とキャリア教育の二本柱から成り立っている。</p> <p>講義改善、教職員・講師の資質向上等を目的として授業評価を年2回実施しており、学生の理解度や講師の状況等を正確に把握し改善している。</p> <p>成績評価・単位認定は、明確な基準を学生に提示している。</p> <p>資格取得については、業界で業務遂行上必要な資格、就職に有効な資格を中心に取得へ向けて支援を行っている。</p>	<p>仙台ECO動物海洋専門学校は、前身の仙台コミュニケーションアート専門学校エコ・コミュニケーション科として平成19年に開設されて以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.就職率100%(第一専門職)</li> <li>2.退学率0%</li> </ol> <p>を目標に掲げ、達成のために教育システムを構築している。</p> <p>■産学連携教育システム 即戦力としての専門的知識・技術、資格取得、ビジネスマインド等を修得</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 企業プロジェクト</li> <li>② ダブルメジャー・カリキュラム</li> <li>③ 業界研修</li> <li>④ 海外実学研修</li> <li>⑤ 特別ゼミ</li> <li>⑥ キャリアセンター</li> </ol> <p>■キャリア教育 「仕事は一人ではできない。仲間と面白い仕事を夢中とする幸せは、何よりの幸福である。」という根本的な考えから、キャリア教育ロードマップを作成し、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 入学前・・・基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期</li> <li>② 在学中・・・専門職業に就くプロセスの設計と能力の修得をする時期</li> <li>③ 卒業後・・・社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期と捉えて取組んでいる。</li> </ol> <p>■動物看護師が国家資格となり、学園グループの国家試験対策センターとの連携をスタートしている。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>・産学連携教育システムに注力して、動物業界の企業プロジェクトへの参画を学生の成長の場として捉えている点が新鮮です。学生が想像力を発揮したプレゼンを、企業が評価するシステムが教育活動として優れていると感じました。地元企業や自治体との連携も地域の活性化に貢献していると感じました。</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>2</p> <p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>平成19年に仙台コミュニケーションアート専門学校エコ・コミュニケーション科として開校以来、産学連携教育システムである企業プロジェクト、企業課題に積極的に取り組み、企業に採用された作品や地域との信頼、貢献に繋がるプロジェクトやボランティア活動も定期的にも実施できるようになり、学生達への「実学教育」「人間教育」に繋がっている。</p> <p>教育成果は、目標達成の努力の結果であり、本校では第一専門職就職100%、退学率0%を教育成果の最終目標としている。</p>	<p>教育成果の1つである就職率は、就職希望者157名中153名内定。残り4名は7月中の内定を見込んでおり、100%達成見込。</p> <p>令和4年度の退学 422名中13名が退学し、退学率は3.1%。 令和3年度は3.6%だったので0.5%低下させることができたが、2年生の退学者が例年よりも数名多かった点は問題である。</p> <p>第1回愛玩動物看護師国家試験の合格率は83.8%。 全国平均は86.3%。市内養成所の中では4校中2番目の合格率。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>・国家試験が始まり、今までの様に就職内定だけではなく、国家試験合格という重圧も加わったことが、2年生の退学に少なからず影響しているのではと考えました。 就職サポート、試験対策、メンタルケアと大変かと思いますが、どれも学校が力を入れている分野だと思しますので、その働きが数字に表れることを願います。 ・退学率は数字だけでなく内容を考慮して判断すべきです。進路変更であればマイナスとは言えないと思うからです。 ・就職希望者の就職内定率100%達成は評価できる一方、愛玩動物看護師国家試験の合格率は全国平均を下回っており、授業だけでなく補習などを行い、合格率100%を目指してほしい。 ・卒業後4ヶ月後に至っても就職サポートを継続しつつ就職率100%完遂を目指している事に好感を持ちました。</p>

5	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	3	<p>■就職 専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との連携を取りながら、就職イベントの開催(就職出陣式、合同企業説明会、キャリアセミナー、就職保護者説明会)、就職の相談、斡旋、履歴書作成等の各種指導などの支援。卒業生の転職相談・支援も行っている。</p> <p>■学費 事務局会計課に相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、教務部に奨学金窓口を設置している。</p> <p>■学生生活 担任制により学生カウンセリングを行っており、場合によっては保護者へ連絡し、協力体制を構築。悩み相談窓口としてSSC(スチューデント・サービス・センター)を設置し、平日は心理カウンセラーを配置している。</p> <p>■健康管理 年1回の健康診断を実施し在学中の健康管理を支援している。</p> <p>■施設使用学生が自ら進んで勉強できるように、実習室・機材を貸し出ししている。</p> <p>■図書室 知識を広げ自習が出来るように図書室を設置、図書室には情報収集ができるようインターネットが利用できる。</p>	<p>■就職 求人情報は全国の滋慶学園グループネットワークを活かし、全国の求人情報を入手(主に動物園・水族館)。 &lt;22年度卒の主な実績&gt; 那須ワールドモンキーパーク／岩手サファリパーク／那須サファリパーク／須坂市動物園／多摩動物公園／上野動物園／サンシャイン水族館／太地町立くじらの博物館／アクアワールド茨城県大洗水族館／仙台うみの杜水族館／越前松島水族館／登別マリンパークにクス など</p> <p>■学費 日本学生支援機構の奨学金を5割以上の学生が利用。 「授業料等減免」「給付型奨学金」の修学支援新制度の対象校となり、多くの学生が支援を受けている。</p> <p>■心理カウンセラー 昨年まで週2日だけだったが、今年から平日5日間配置している。</p>	③・2・1	<p>・国家試験や就職のサポートだけではなく、学生たちの精神面へのケアもしっかり考えられていると感じました。しかし、生徒数の増加と共に、今後、担任の先生の負担など、課題も生まれてくると感じました。</p> <p>・これは「学校運営」の部分かもしれませんが、生徒だけではなく、働いている方々の心のケアに対してもどうようのしえんがなされているといいなと思いました。</p> <p>・奨学金の利用率が多く何っているのは世情を反映しているものと思われませんが、将来に向けた価値ある投資となるよう支援して行ってください。</p> <p>今年度は、6割の学生が奨学金を利用中であることと、退学により奨学金の利用率が多く何っているのは世情を反映しているものと思われませんが、将来に向けた価値ある投資となるよう支援して行ってください。</p>
6	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	2	<p>「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションのもと、業界で即戦力となり得る人材育成を目的を達成するために必要な教育環境(施設、設備、機材等)は整備されているが、学生数増加に伴う、教室の数や広さの問題は解決しなければならない。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の教育環境(業界研修、学外演習、海外実学研修)も整備している。</p> <p>防災訓練は例年2回実施しているが、令和3年度も前年同様新型コロナウイルスの影響により映像にて実施。</p>	<p>今年8月に着工、2024年9月に竣工で新校舎建築が予定されている。既存の校舎も改築され、充実した学習環境が整備される。</p> <p>新しいスタッフのコネクションにより、新たな特別講義も多く開講。オンラインを活用することで遠方の施設や講師の特別講義も開講できている。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で中止されていた海外研修は4年振りに再開される。</p>	③・2・1	<p>・生徒数増加による設備面の問題に対しても、早急にたいしょされていますし、状況に合わせて新しいことをとり入れ活用されていて、良く考えられていると感じました。海外研修の再開おめでとうございます。</p> <p>・新校舎建築は上昇イメージが高まる材料です。</p> <p>・現校舎から徒歩3分圏内に新校舎が設置されるとのことで更に地域の活性化に繋がるものと期待しています。魅力発信を通じた継続的な規模拡大を地元として漢° 歓迎しています。</p>
7	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	3	<p>本校は宮城県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また、過大な広告を一切廃し必要な場合は根拠数字記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。</p> <p>広報・告知に関しては各種媒体、ホームページ、入学案内、説明会等を通して、学校や教育内容を知ってもらえるように努めている。これらすべての広報活動において収集した個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、管理の徹底を行っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しており、入学選考後は「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中での追加徴収を行わない。</p>	<p>2019年の仙台コミュニケーションアート専門学校からの分離独立を機に年々学生数が増加している。</p> <p>広報活動では「学校の特色」はもちろんのこと、「動物業界の変化」(今求められている人材像)についても理解してもらうことを強化している。本校は専門職への就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前から目指す職業のイメージが明確になっていることが大切と考え、体験入学や説明会を通して十分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化している。</p>	③・2・1	<p>・オープンキャンパスなど適切な募集活動をしていると思う。</p> <p>・学生数が増えるに従い、多様性が増すので今後更なる柔軟な対応が必要位になりそうです。</p> <p>・6月の学園祭では、他県の各地域からの来訪者に向けたバスをチャーターする等、募集及び学校紹介に関する積極性を感じました。就職実績と卒業生の活躍を紹介することは、募集の上で具体的かつ判りやすい魅力発信になると感じました。</p>
8	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	3	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度の事業計画書を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>また、学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックするため、より現実的に即した予算編成となっており、健全な学校運営が出来ていると考える。</p> <p>財務情報公開に取組み、体制を整えている。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとなればそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。</p> <p>②体制作り 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し、予算と乖離しているようであれば、修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。</p> <p>財務諸表・監査報告書の提示はホームページにて公開、仙台ECO単体でも黒字経営ができており、一昨年実施された監査は特に問題なく終えることができた。</p>	③・2・1	<p>・財務諸表が公表されれば更に健全さがアピールできると思う。</p> <p>・学校と本部二重チェックになっている体制は、厳正で不正を予防できて良いと思います。</p> <p>・1学年100名以下だった学生数が200名超の学生を有する体制へと変化することと、新校舎開設に伴う収支の大幅な変化が、財務体質と経営の強化に繋がればよいと感じています。</p>

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとにコンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では学校運営が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基本調査 ④専修学校各種学校調査 等 である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム構築 ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	すべての法令を遵守するとともに社会規範を尊重し、高い倫理感に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。  方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置。委員長は統括責任者として学校の役員が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は行動規範・コンプライアンス規定の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。	③・2・1	・ホームページで誰でも閲覧できるようになっていて、透明性がある。 ・公開され外部の目にさらされると構成が求められ緊張感が生まれていいと思います。 ・学校側の法令順守とは別に、学生に対するコンプライアンス教育の導入実績に興味があります。学生・若者が犯罪事案に巻き込まれる昨今の事案が気になっています。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか					
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか					
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか		滋慶学園グループというスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校運営が出来るようにしている。法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。  自己点検・自己評価を実施し、学校関係者評価委員による評価を頂いた上で、問題点の改善に努め、ホームページにて情報公開を行っている。			
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	滋慶学園のミッションである「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを目標に人材育成を具現化することで、本校を巣立つ学生が社会貢献につながっている。  滋慶学園グループの「4つの信頼」 ①業界の信頼 ②高等学校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼 の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。  社会貢献・地域貢献につながるプロジェクトにたくさん取り組んでいるが、ボランティア活動はまだまだ少ない。	日本初となる『風力発電のバードストライクドッグ育成プロジェクト』は再生可能エネルギーの増加に貢献することができる。  『おしかホエールランド鯨類認知活動プロジェクト』では、クジラの生態や鯨類文化を多くの方に知ってもらうことができ、地域にも貢献することができた。  仙台駅東まちづくり協議会・仙台市公園課から依頼のあった『榴岡公園ドッグランプロジェクト』は一昨年からは継続して取り組んでおり、社会に貢献することができている。	③・2・1	・今後更に力を入れていくべき項目であり、やれる可能性があると思います。 ・学生がボランティア活動を通じて地域への社会貢献をする必要性を感じる。様々なイベントに積極的に参加できるよう率先して自治体やイベント主催者などへ働きかけを行い受け皿を増やす必要があると思う。 ・地域のごみ拾いを週2回意地用実施しています。動物の散歩などの機会を活用しつつ、地域の美化に繋がる社会貢献として賛同いただけるなら、専用のごみ袋及びトングを用意させていただきます。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか					